

令和4年度 第3回里庄町地域公共交通会議 議事録

と き 令和4年8月30日(火)

10:00~11:30

ところ 里庄町福祉会館2階 研修室

1. 開 会

- ・ 出席者 委員 12名
- ・ 欠席者 委員 2名

【会長挨拶】

- ・ 会長よりあいさつ

2. 議事

(1) 里庄町地域公共交通計画の方向性について(協議事項)

- ・ 事務局より説明

(委員) JR里庄駅の機能強化は非常に大切であると思う。タクシーを利用するお客様から、「エレベーターが無いから里庄駅ではなく、笠岡駅や鴨方駅で降りる」という声を聞く。JRへ色々働きかけをしているのだろうが、現在はどのような状況なのかが全く見えていない。現在の状況を教えていただきたい。

(事務局) JR里庄駅の機能強化については、現時点で直ちに行うと申し上げられる事は無いが、資料に記載しているようなバリアフリー化や、駅前整備事業といった利用環境の改善については、今後検討していく段階である。

(会長) ある程度利用者がいないと、JRとしてもなかなか着手しづらいため、もう少し里庄駅の利用者を増やすことも考える必要があると思う。具体的に言うと、笠岡市の東に住んでいる人は、笠岡駅ではなく里庄駅を利用してもらおうという戦略を考えてみるのも良いと思う。

(委員) 障がい者手帳で人数が把握できるため、障がい者に対してのタクシー運賃助成も考えてみてはどうか。

(副会長) 75歳未満で障がいがある方に対しては、社会福祉協議会から1万円分の福祉タクシー助成券かガソリン代が出ている。また、人工透析を受けている方については、通院の支援として1回1,500円、月2回までの1か月3千円を出している。知的障がいの対象者は95名、人工透析の対象者は18名である。

(会長) 先程副会長がおっしゃったことは、2ページ目の「取り組むべき課題と対応方針」の「①交通弱者が安心して生活できる移動手段の確保」に該当すると思う。公共交通政策で対応するという訳ではないが、参考程度に福祉タクシーや、人工透析の方への支援等は、この計画の中に書けるのであれば書いておいても良いのではないかと。

- (委員) 8ページの下から2番目に、「タクシーを活用した貨客混載・救援事業等の検討」とあるが、現在貨客混載については、過疎地でないとできない。今後緩和されるかもしれないが、現状過疎地でしか実施されていないと認識していただきたい。里庄町は過疎地ではない。あと、「駅構内での情報提供の充実」と書いてあるが、現状はどのような情報提供をしているのか。
- (事務局) 里庄駅の構内には、駅に来られたお客さんのために観光パンフレットや町内のマップを置いており、手に取っていただくと一目で分かるようになっている。「タクシー乗り場はこちら」という表示もしている。
- (会長) 最近出てきているデジタルサイネージなどは検討されていないのか。
- (事務局) デジタルサイネージは現時点で検討していない。
- (委員) タクシー事業者を取り巻く環境というのは、本当に苦しくなっている。去年の12月から里庄タクシーを事業承継し、新たな体制でがんばっているが、急に売上げが増える訳でもない。高齢者が免許を返納した時にもらえる「おかやま愛カード」や、障がい者手帳を提示していただくと1割の料金値引きがあるが、県や自治体から補助は無く、タクシー会社の企業努力で料金割引をしている状況である。1割の値引きをずっと続けていくと、年間ではかなりの金額となる。その負担が何とかなくなるものかというのが正直な思いである。こちらも色々努力はしたいが、法律で決められた部分もあり難しい。迎車料金を取ると申請しているのに取らないことはできないし、逆もできない。「おたくは料金が高い」と言われたり、「これだけしか払わない」と、最初から決まったお金しか持たずに乗るお客様もいたり、厳しい状況である。よって里庄町からタクシーチケットを増やしていただきたいというのが、願いではある。補助をしていただきたいのが素直な思いである。
- (委員) 8ページの一番下にある「タクシー事業者の取組に対する支援」というのは、具体的にどのように考えているのか伺いたい。
- (事務局) 「タクシー事業者の取組に対する支援」というのは、色々な形があると考えている。先程委員が言われたように、補助の在り方を見直すというのも支援の1つに成り得ると考えている。現時点で具体的な施策を申し上げることはできないが、これまで皆様からご意見を頂いた中であつた、妊産婦に対する助成や障がい者に対する支援等、色々なやり方を今検討しているところで、具体的な内容については次回の公共交通会議で話をさせていただきたい。
- (副会長) まさにそこが非常に重要な部分であり、表の中ほどにある「タクシーを利用したくなる環境づくり」につながってくると思う。色々な年齢層の方、色々な状況の方が利用しやすいタクシーとはどういうものなのかということ、これからしっかりタクシー事業者を含めて相談させていただきなから、取り組んでいきたいと考えている。
- (会長) 恐らく里庄町の公共交通の担い手はタクシーで間違いないため、そのところはしっかりと計画に書く必要がある。逆に言うと2ページ目の「3.

取り組むべき課題と対応方針」の中に「④地域の重要な資源であるタクシーの活用」とあり、ここまで踏み込んで書く公共交通計画はないと思っていて、この計画の中でタクシーは公共交通機関であると、しっかり位置づけられている。福祉系でも結構タクシーを利用しているようで、そこが公共交通かと言われると難しいところだが、地域の公共交通として、都市系の施策ではなく福祉系の施策としてタクシーを活用した外出や移動の支援をしていることは書くべきだと思う。というのは、今回この地域公共交通計画を策定するにあたって、国の方からは地域の資源の総動員ということが言われており、里庄町の場合ではこれまでもタクシーを利用して色々なサービスが行われてきた。福祉系の計画にも位置付けられるとは思いますが、公共交通の計画としてもしっかり位置付けて、取り組むべき課題の方向性の中で、「地域の重要な資源であるタクシーの活用」と言っているため、これからも引き続き公共交通として支えていくと書くべきである。

(委員) タクシー会社にお尋ねしたいが、日中と夜間の稼働台数を教えていただきたい。利用者の方から「乗ることができなかった」という声を聞くため、何時から何時は何台稼働しているというのを教えていただきたい。

(委員) 旭交通里庄は、朝から夕方くらいまでは3台、夕方から21時くらいまでは2台、終電までは必ず1台はある。日曜日は1台か2台である。

(委員) 里庄タクシーは、夕方の6時までは3台で、夕方6時以降は予約のみである。たまに乗務員が休みで2台になることがあるが、その場合は笠岡市の神島タクシーにある予備車を里庄に呼んで乗車してもらうこともある。しかし乗務員の数が少なく、夕方は1人も利用者がおらず駅で3～4時間待つこともある。朝は、病院へ通う方がたくさん使うため忙しい。タクシーは地域公共交通の担い手なので、駅にいたるべきということで、試験的に夜8時まで待ってみたが、迎えの自家用車が駅前に並び、タクシーの利用客はいなかった。そのため、終電まで手当をしている旭交通里庄さんは本当にすごいと思う。うちは今の乗務員数ではどうしても回らないため、乗務員の確保も喫緊の課題である。乗務員も高齢化しており、私が担当してから大分若くなったが、何とか乗務員を確保していきたいと思う。

(委員) 夜22時～23時頃の利用というのは、飲食店で食事をしてお酒を飲んで帰る方が重要な収入源の1つとなっている。やはり駅前が非常に寂しい。駅前に1軒居酒屋があるが、もう1、2軒くらい赤提灯やスナックといったものがないと、タクシー事業として法律の中でやっていくのは難しい。里庄駅前が乗降だけでなくちょっとした居酒屋等、夜の飲食ができるお店があれば、タクシーの需要があるため、運転手も終電まで待機ができる。里庄駅だけでなく、隣の浅口市の鴨方駅や金光駅も同じで、1社1台ずつで3社とも24時までは電話受付の方がいるが、1社が電話を受付して3台をコントロールするようにはしないと非常に非効率である。これではいつまでも続かないだろうし、経営者が高齢化した時に事業の承継が上手くいくのか。コミュニティバスやデマンドタクシーだけでは、事業が成り立た

ないのではないかと。乗っていただけるよう営業活動をしているが限界があり、何かにぎわいを創出して、いかに終電までタクシーを維持していくのかを考えなければならない。

(会長) 私からも1点タクシー事業者さんに伺いたい。里庄町には民間企業が多く立地しているが、例えば出張で来た人がタクシーを利用するとか、企業とタクシー事業者が契約してタクシーチケットが使えるようにしているとか、民間企業とのつながりがあるのかどうか教えていただきたい。

(委員) 実際に利用はあるが、コロナ禍で出張が少なくなりました。コロナ前であれば、企業の方が新倉敷や福山まで行かれることはあった。

(委員) 里庄タクシーの場合は、過去の事は分からず今年の12月以降の事になってしまうが、定期的ではないが呼んでいただくことはある。

(会長) 様々なご意見をいただいたが、今日説明していただいた協議事項であるこの計画の方向性の柱立てについては、直した方が良い所についての意見は特に無かったと思う。細かい部分では、例えば施策の中で「タクシー事業者の取組に対する支援」等は、今後加筆することになるかと思う。事務局から今日提示があった、地域公共交通計画の方向性についてご承認いただける方は、挙手をお願いしたい。

～挙手多数～

(会長) 出席者の過半数を超える挙手があったため、方向性についてはこれで進めさせていただきます。

(2) 里庄町地域公共交通計画の基本理念について

・ 事務局より説明

(委員) 1番が現実的で良いと思う。「人が集い 活気あふれる里庄」というのは町民の方から疑問を持たれる気がするし、「人とまちとくらしをつなぎ 未来に運ぶ」というのは、余りにも大きな話になりそうな感じである。一番身近で暮らしを支えて地域に根差した足ということで、1番が良いかと感じている。

(委員) これを読んで音として聞くと何も気にならないが、字面を見て「くらし」や「まち」をひらがな表記にしているのは、何か意図があるのかお尋ねしたい。

(事務局) あえてひらがなを使うのは、絶対こうしなければならないという自治体のルールがある訳ではないが、どんな人が読んでもスッと頭に入って読みやすく、感覚的にパッと見て分かるような方が良いかと思い、漢字はできるだけ簡略化させていただいた。

(委員) キャッチコピーとしては、ひらがなが入った方がかっこいい。

(委員) 子どもにもすぐに読みやすいという意味で、このようにされたかもしれない。

(会長) 確かに計画は町民皆のものであるため、子ども達にも分かりやすい基本理

念の方が良いかもしれない。委員から、2番では「活気あふれる」という所がどうなのか、3番では「未来に運ぶ」というのが強すぎるのではないかという事から、1番が良いのではないかとご発言があった。私は1番が良いと思った。その理由として、学校に行くことや働きに行くというのが根源的な需要で、それに追従して出てくるのが公共交通の需要だと言われているため、公共交通の本来の目的が書いてある方が、私は良いと思っている。「住みやすいまちを目指して」というのは、色々な活動ができるということがすごくイメージできて、その前に「くらしを支え、地域に根ざした」という文章もあるため、公共交通の本質を捉えているし分かりやすい。個人的には「目指して」の「指す」は、全体的にやわらかいイメージできているため、ひらがなが良いと思う。私は3つの案を見て、そのように思った。3つのうちのどれかを選んだことによって、計画が大きく変わることは無いとは思いますが、今日前半で議論していただいた中身との整合を考えると、1番が良い気がする。今日のところは、里庄町の地域公共交通計画の基本理念は1番にするということにさせていただいても良いか。

～異議なし～

(委員) 「目指して」をひらがなにするのは、字数も変わらないし、その方が私も良いと思う。

(会長) ありがとうございます。「目指して」の「指す」をひらがなにしてもらい、1番を基本理念とさせていただいて、この基本理念と、今日皆様にご了解いただいた地域公共交通計画の方向性をベースに、これから計画の中身を事務局に作っていってもらうことになる。本日の議事は以上であるが、皆様の方から何かあるか。

～意見なし～

3. その他

- ・今後のスケジュールについて、事務局より説明

4. 閉 会

以上